

ネイパルへGo!冬

1, 趣 旨

親子にネイパル森の様々な活動を提供し、家庭教育支援の一助とする。

2, 期 日

平成27年1月17日(土)～18日(日) 1泊2日

3, 主 催・実施場所

北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル森

4, 協力

渡島教育局、C. Iproject

5, 参加対象

親子

6, 参加実績

12家族 33名



7, プログラム内容

17 土	12		13		14		15		16		17		18		19		20		21		22	
	12:30 受付開始		開 会 式		タ イ ム は じ め ま し て		(子ども) 雪とあそぼう バナナボードほか(予定) ※天候によって変更になることもあります。 (大人) T's クッキング ※鍋作り		ス ノ ー ラ ン タ ン 作 り		夕 食		入 浴		ゆ っ く り タ イ ム ※大人と子どもと 別れて活動				就 寝			
18 日	6		7		8		9		10		11		12		13		14					
	起 洗 床 面		清 掃		朝 荷 物 移 動		部 屋 点 検		 親力つむぎ キャンペーン スペシャルライブ!!		閉 会 式		12:30 解散									

8, 活動の様子

開会式では、阿部所長から、「昨日からふかふかの雪も降り、外での遊びも楽しむことができるようになった。元気に楽しく遊んでほしい。夕食としてお父さんお母さんが鍋を用意しているので、家族で楽しく鍋を味わってほしい」と挨拶があった。

その後は、「はじめましてタイム」として、体育館で各種の楽しいゲームをして家族間の交流を深めた。次に、親と子で分かれて活動した。子どもは外で「雪遊び」、大人は、クッキングとして鍋の準備をそれぞれ行った。子ども達は、バナナボードに乗ったり、ソリに乗って遊んだりして冬の外遊びを大いに楽しんだ。親の方は、ネイパルスタッフから、鍋の作り方のレクチャーを受けて、下地作りをした。色々な材料を切るなどして、鍋をセット。核家族が相談しながら用意した。その後は、外でランタンづくりをした。どの子どもも雪の山に穴を掘り、無心になって作っていた。出来たランタンにろうそくを入れ、点灯。ほんのりと点った明かりにどの参加者も目を細めていた。館内に戻ってきてからは、親子で「きりたんぼ鍋」。美味しいとどの家族も\(\◎o◎)/!をほころばせていた。夕食後は、親は「のんびりタイム」。子どもは「のんびりタイム」。大人は、日頃の子どもの家庭での生活などについて、時間になるまで語り合った。子どもは、体育館で色々なゲームをして楽しんだ。

二日目は、一日目の思い出をスライドで見て、昨日の出来事を振り返った。その後は、「親力つむぎライブ」に参加。渡島教育局と共催で行った。家庭や地域の絆をつむぎ、北海道全体で明るく子ども達を育む気運を高めていくために企画されたもの。このキャンペーンソングを作った、c, I project による演奏が行われた。ライブ後半では、キャンペーンソング「そだてみち」を会場の参加者全員で歌ったり、食育紙芝居「がんばれ! オシマのシマオくん」の読み聞かせが行われたりするなどして、楽しい一時をすごしていた。

参加した親からは、「子どもたちは家ではゲーム、テレビが主になってしまっていたので、このような事業に参加して、外遊びなどを一杯するのは、とても良かった」「子どもは全体的に満足できたようで良かった」スタッフの方々の心配りがとても良く、非常に安心して参加することが出来ました」などといった感想があった。どの家族も満足げに手を振りながらそれぞれ帰路についた。

9, 参加者の声

(以下アンケートより抜粋)

- ・日頃、娘と遊ぶ時間がとれないので今回体育館でキャッチボールしたことがとても楽しく思い出に残っています。
- ・子どもたちは、家でいつもゲームやテレビが主となってしまったので、このようなイベントに参加し、外遊びなど体をいっぱい動かすことができてよかったです。
- ・とても楽しい時間をすごせました。また、参加したいです。
- ・他の親子との交流がとても良かったです。



10, 事業の分析と考察

今回の事業趣旨は「親子にネイパル森の様々な活動を提供し、家庭教育支援の一助とする。」であった。家庭教育支援につなげていけるよう、保護者同士の交流の場になれるよう工夫した。例えば、夕食の鍋については保護者のみで調理をする。鍋の具材やスープを選べるようにした。そうすることで、スープや具材を相談することをきっかけに会話ができるよう行った。また、夜はリラックスしながら普段のお子さんの様子が話できるような場作りをおこなった。アンケートから、「保護者同士の交流が自然な形で」「鍋の具を工夫して切ったり、みなさんとアイデアを出しながら作れた」「協力しながら交流できた」など声があがっていた。

参加者の日常での多くが、なかなか時間がとれないためご飯や遊ぶことができないという声が多くあがっていた。今回、新しい仲間と交流を図っていきながら、家庭教育支援につながるきっかけになったことがアンケートから分かった。



11, 成果と課題

○成果

- ・夜、大人と子どもが分かれて活動した。大人だけでゆっくり話をする機会がないため、情報交換が行えてとても良い機会となった。

・

▼課題

- ・外遊び活動を行う際は、安全管理を徹底する必要がある。今回はとくに、ケガなどは起きなかったが、起きても職員全員が対応できるよう日頃から意識しておく必要がある。

